

令和5年4月25日
記者発表

「空飛ぶクルマ」運航実現に向けた和歌山県版ロードマップ・アクションプランを策定しました！

和歌山県では、大阪・関西万博を契機とした県内への誘客促進等の実現に向け、「空飛ぶクルマ」の実用化を推進しています。

そのために和歌山県版ロードマップを作成し、必要な実施目標としてアクションプランを掲げ取り組んでいきます。

空飛ぶクルマとは？

eVTOL (Electric Vertical Take-Off and Landing aircraft、電動垂直離着陸機) と呼ばれる垂直に離着陸し、ヘリコプターやドローン、小型飛行機の特徴を併せ持つ電動の機体です。滑走路が不要で騒音が少ないのが特徴であり、駆動時に温暖化ガスを出さず、整備・運航等にかかるコストがヘリコプターと比べ安価です。

和歌山県版ロードマップ・アクションプランの概要について

① 「導入期」(現在～大阪・関西万博まで)

空飛ぶクルマに関する規制等の情報を収集し、空飛ぶクルマの運航が可能となる環境を創造していきます。また、拠点となる離着陸場の選定や実際の運航ルートを含めた環境の整備を行います。

② 「成長期」(大阪・関西万博～2030年まで)

空飛ぶクルマの運航が進むよう、周辺府県との連携、拠点の拡大等により、運航の柔軟性を確保し、空飛ぶクルマの利便性を高めます。

③ 「発展期」(2030年以降)

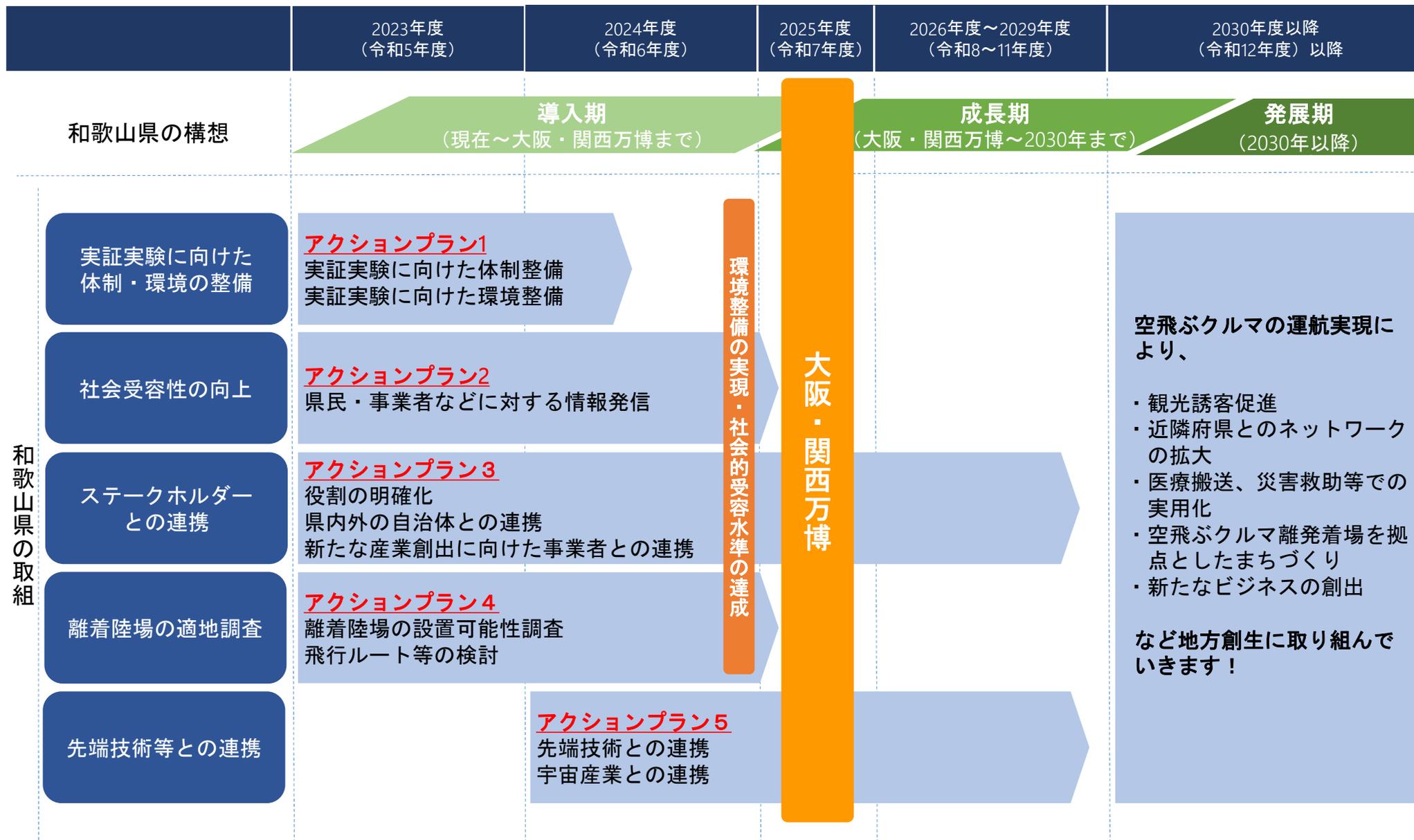
車、バス、鉄道等既存インフラとの連携・共存を実現することにより、空飛ぶクルマを生活のみならず、観光周遊にも活用させます。また、今後期待される機体性能向上により他府県へのネットワークをさらに拡大させ、新たなビジネスを創出するなど地方創生に取り組めます。

和歌山県が想定している空飛ぶクルマの活用方法

① エアタクシー	都市(地域)間移動や空港・駅からの二次交通
② 災害救助	災害時の人命救助・物資搬送、医師搬送システムでの利用
③ 山間部・離島間移動	移動困難地域における円滑な交通サービスの提供
④ 娯楽・観光	観光地への誘客促進、遊覧、離島ホッピングなど



出典：経済産業省ウェブサイト (https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/robot/181220uamroadmap.html)



和歌山県内での空飛ぶクルマ運航実現に向け、5つのアクションプランを掲げ、推進を図ります。
本アクションプランでは、主に2025年大阪・関西万博までに取り組むべきアクションを記しております。